

医学教育における補完・代替医療 ～ 関西医科大学における統合医療プロジェクトの試み～ Complementary and Alternative Medicine in Medical Education

竹林 直紀，相原 由花，垣内 晶代，有城 幸男，足立比呂美，中井 吉英

関西医科大学心療内科学講座

Since the public utilizes both conventional health care and complementary and alternative medicine (CAM), we believe that this reality should be reflected in the education and training of all health practitioners. Thus, the education and training of conventional health professions should include CAM, and the education and training of CAM practitioners should include conventional health care. Since 2001, department of Mind-Body Medicine, Kansai Medical University has conducted “integrative medicine project”. In this project, we have had CAM education for 4th, 5th and 6th-year medical students, as part of the curriculum of Mind-Body Medicine. We will show some data about questionnaires for medical students.

西洋近代医学における医療モデルは、生物学的側面を重視した biomedical model であるのに対して、補完・代替医療（CAM）や心身医学は、人間を心理的、社会的要因も含めた多因子が関与する存在としてとらえ、切り離された個々の因子の実態よりも、全体としてのシステムや各因子間の相互作用と関係性に重点を置く bio-psycho-social model による理解が必要となってくる。このように、biomedical model による従来の医療システムに bio-psycho-social model によるCAMを統合していくためには、その当事者である医療従事者とCAMセラピストの教育が重要である。そのためには医師や看護師などの医療従事者に対する「CAM教育」と、CAMセラピストに対する「解剖生理学などの基礎医学教育」が必要であり、両者とも心身医学や行動医学を中心とした健康と病に関わる人間理解とコミュニケーションスキル教育が求められる。

関西医科大学心療内科では、2001年より「統合医療プロジェクト」を進めており、現在心療内科学講座の研究員として5名のCAM専門家が所属している。大学附属病院内では、研究としてまたは心療内科での治療補助として、患者対象にアロマセラピー、びわ温灸、カラーセラピー、気功、瞑想、ヨガなどのCAMを行っている。また医学生には、4、5、6年生対象に、CAMとホリスティック（全人的）な統合医療についての講義や実習を施行している。今回われわれは、4年生のCAM概論講義と5・6年生へのアロマセラピー実習を中心とした統合医療セミナーにおいて、アンケートによる医学生のCAMに対する意識調査を行ったので、その結果に若干の考察を加えて報告する。また、CAMセラピストに対する教育システムのあり方にも言及すると同時に、統合医療実践に必要な教育システムの可能性について述べてみたい。